

(別記)

令和4年度西桂町地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、耕地面積に占める主食用米の割合が約40%であり、野生鳥獣による食害から水田を守るため、鳥獣害防除事業を活用した電気柵の設置をし、農用地の保全及び農家の営農意欲の低下と耕作放棄地の発生を防止するように努めてきた。一方で、農家の高齢化・担い手不足が深刻化しており、耕作者の減少により現在耕作されている土地が将来的に遊休農地化するリスクに加え、荒廃農地の増加やそれに伴う非農地化で年々水田面積が減少している状況にある。

近年、主食用米の需要が減少傾向にある中、水田農業の維持・発展させていくためには、現状多くの割合を占める主食用米から収益性の高い農業への転換等を図っていく必要がある。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

基本的な転換方針としては、当地域における主食用米が耕地面積の大半を占めている現状から高収益作物の生産拡大を図るため、産地交付金を有効に活用しながら自家消費を中心としている生産農家へアプローチし、農業所得の向上と市場ニーズのある高収益作物を重点に置く生産体制へと移行していく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

当地域は担い手・労働力が減少しており、現況水田の急激な畑地化は厳しいと判断され、基盤整備が行われておらず農地の集積・集約化が効率的な生産に繋がりにくいという課題がある。そのため水田の利用状況を点検し、継続して水稲作付が見込まれるものと畑地化に転換できるものを整理し、地域の実情を勘案しながら畑地化支援を検討していく。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

主食用米については、生産数量目安に沿った作付を基本としつつ、需要に応じた生産を推進していく。

(2) 備蓄米

該当なし

(3) 非主食用米

ア 飼料用米
該当なし

イ 米粉用米
該当なし

ウ 新市場開拓用米

該当なし

エ WCS用稲
該当なし

オ 加工用米
該当なし

(4) 麦、大豆、飼料作物

大豆については優良品種や収量の向上及び省略化を進め、生産性の向上を図る。
麦、飼料作物については取組み予定はなし。

(5) そば、なたね
該当なし

(6) 地力増進作物
該当なし

(7) 高収益作物

県の産地交付金を活用して、主食用米からの移行を軸に据え、転作作物等の支援を行いながら、作付面積の維持・拡大を図っていく。また、特に地域で振興を図る必要がある品目を位置づけ、農業者の収益性向上とその販路拡大を推進していく。

5 作物ごとの作付予定面積等

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。